



子どものはたの何故

奥山真紀子

子どもの困った行動



こんな行動に出会ってこんな気持ちになったことは？

- 怒り出すような場面でないのに突然怒り出す。
- パニックになる。大泣きをする。
- 集中力に欠ける。
- ハイテンションになって、止まらずに話しを続ける。
- 一つの話をしているのに、急に別の話をしだす。
- 優しくしようと近づくのに、受け入れようとしない。
- 急に人が変わったようになる。
- 時々、ボーとしていて、聞いていない。
- 注意すると、固まってしまう。
- いくら注意しても同じことを繰り返す。
- 何をしたいのかわからない。

困ったなあ
イライラする

何とかしなきゃ
このまま大きくなったら
困る

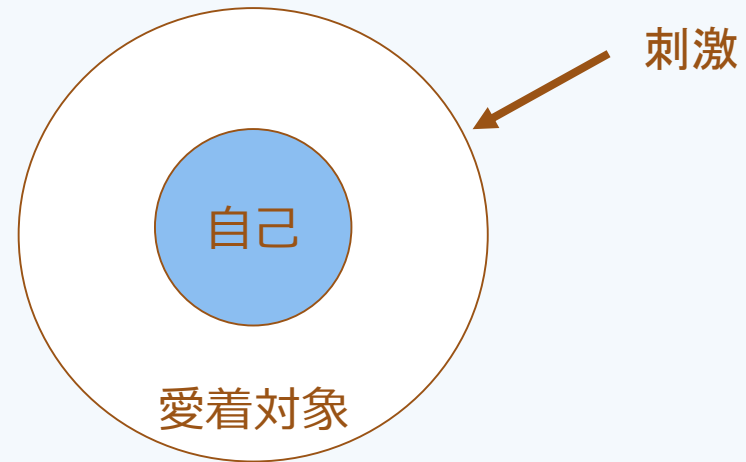
12月23日：友達の児童精神科医のFB

- 暴れる子どもが教えてくれたこと。「怒ってたんじゃない、困ってたんだ。」ってさ。
- 私たちは分かってるふりして、ホントは何も分かってないのかもね。

子どもの行動には背景がある

- 子どもの行動だけを見ていてはわからない
- 何故？ と考えてみよう
- アタッチメント問題—トラウマという視点から読み解く方法も考えてみよう

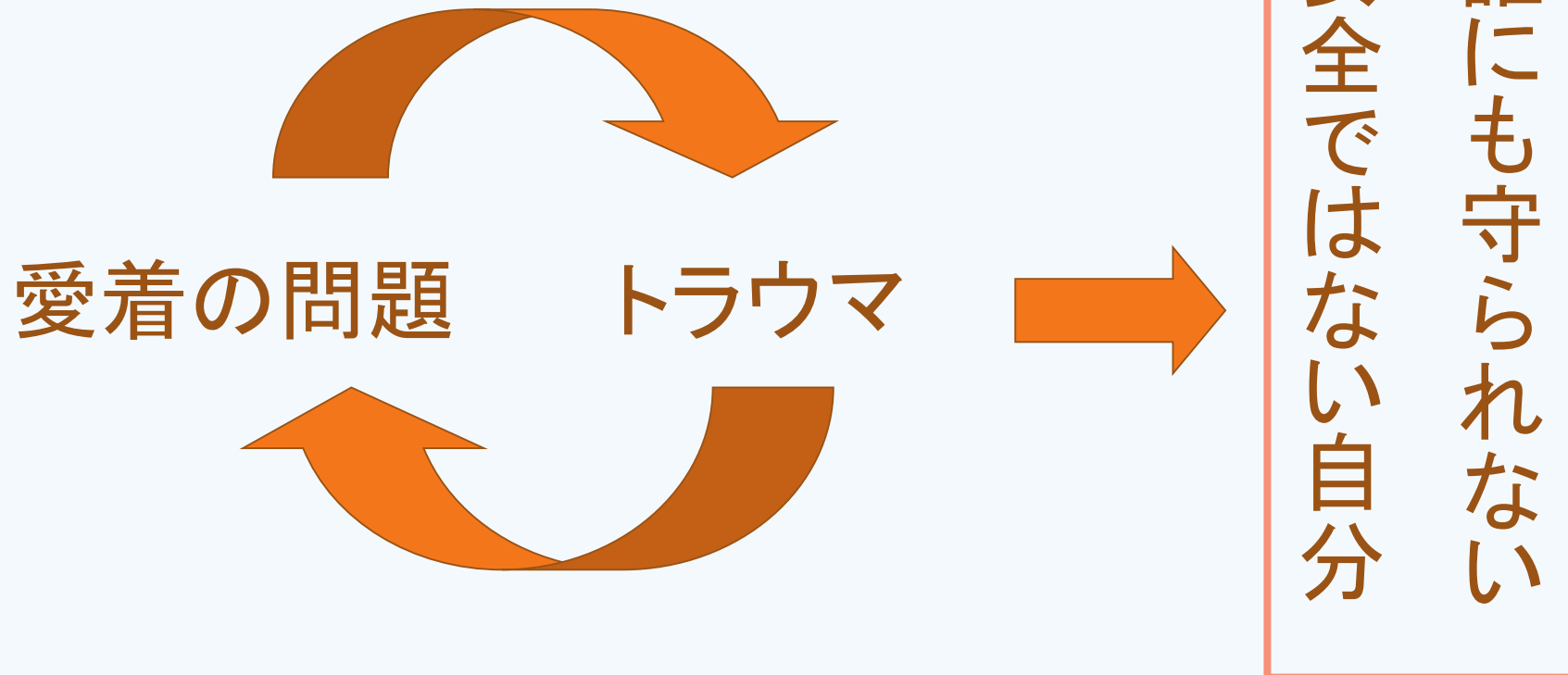
アタッチメントによるトラウマになりづらさ



アタッチメント形成不全-トラウマ問題という視点

- 愛着の問題
⇒ 易トラウマ性
- トラウマ
⇒ 安心感の崩壊
愛着パターンの変化

アタッチメント形成不全とトラウマの悪循環



アタッチメント形成不全—トラウマの5大影響

- 人を信じられない
- 自分で自分を守ろうとする臨戦態勢の維持
- フラッシュバック・再演
- 解離
- 自己調節不全

人を信じられない

- 人を利用するが人と人との情緒的なつながりは薄い
- すぐ他人に乗り換えられる
- 信じてもらえない周囲の心地悪さ
- 可愛いと思えない行動
- 裏切られたような印象

自分で自分を守る臨戦態勢

- 常に周囲の刺激に敏感になる
 - ⇒刺激に敏感⇒注意があちこちに向けられる⇒集中力の低下
- 戦う(fight)か、逃げる(flight)か、凍り付く(freeze)か
 - ⇒興奮しやすい、攻撃が多くなる、固まりやすくなる
- その場、その場の生き残りに精一杯
 - ⇒つながりが少なくなる
 - ⇒しつけができにくい

脳科学でも実証

(Takiguchi et al; Br J Psychiatry Open, 1,1221-128, 2015)

定型発達児

愛着障害児

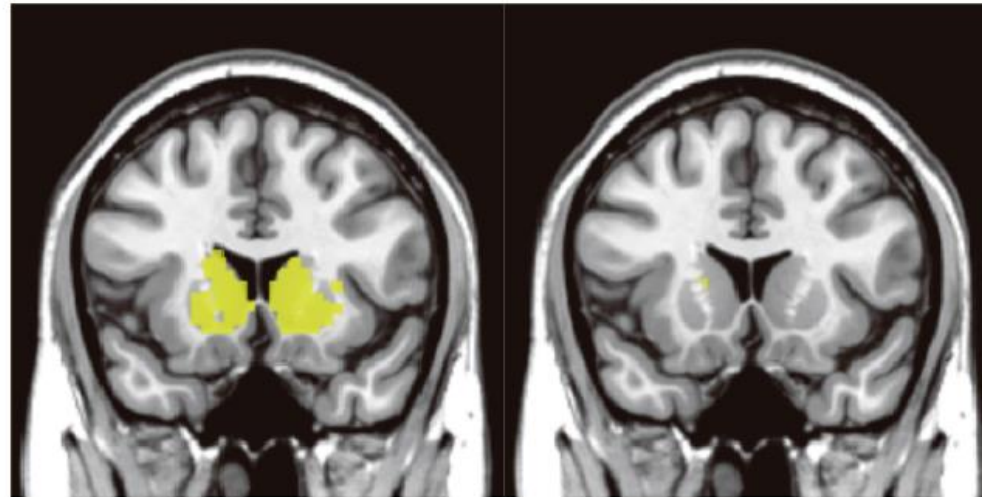


図 2A 反応性アタッチメント障害 (RAD) 患児における金銭報酬課題 fMRI 所見

フラッシュバック・再演

- トラウマ体験の何らかのリマインダーが子どものフラッシュバックに繋がる

例:「おまえ」と怒鳴られて殴られていた子どもは、友達の親しみのある「おまえ」という言葉でもフラッシュバックして、相手を殴ってしまうこともある

- 最初はリマインダーはわからない⇒従って、「地雷」と考えよう
- 例えば、急にパニックになったり、行動が変わる子どもには、その前後を考えて、何が「地雷」になっているのかを探ることが必要となる
- トラウマ体験の再演

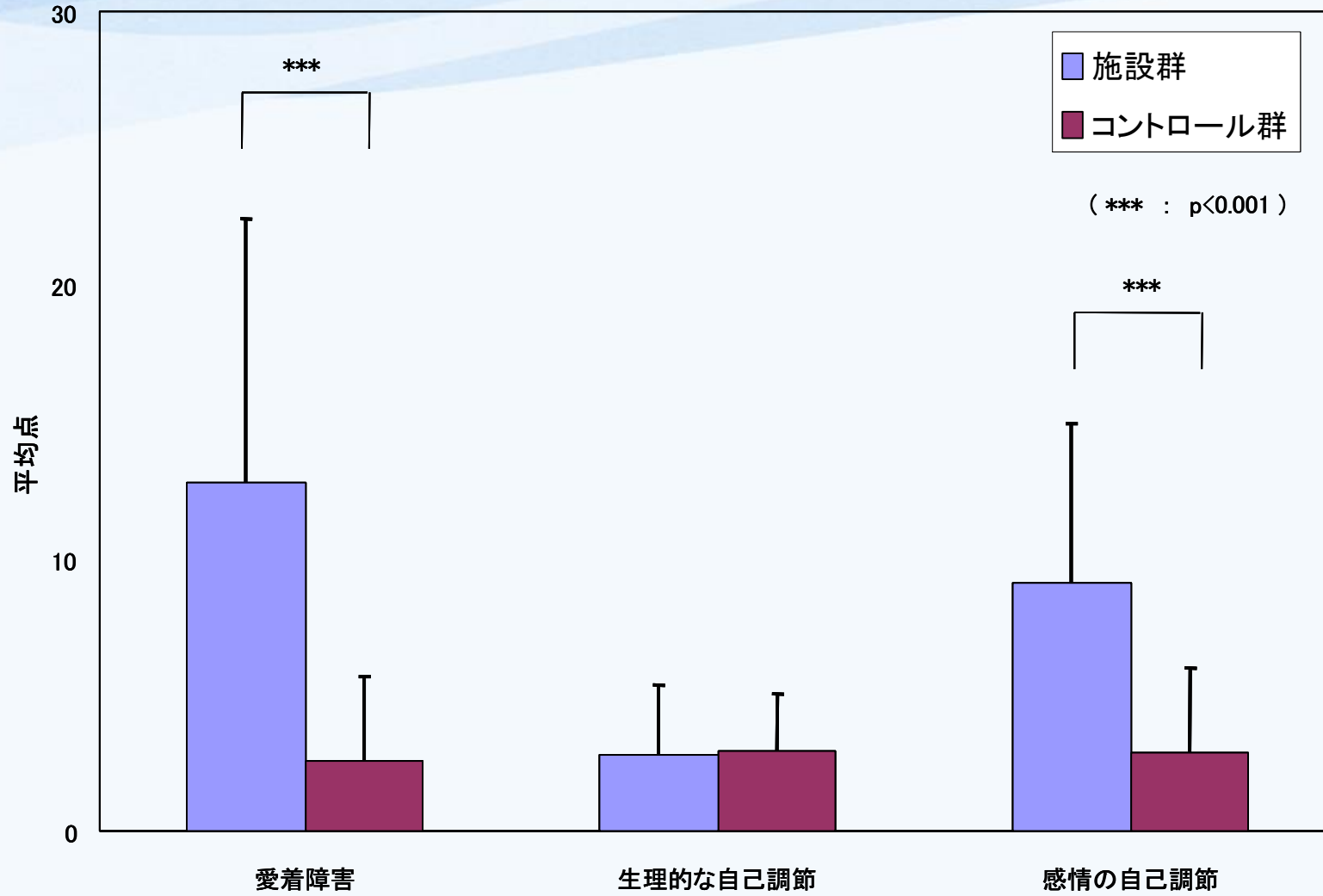
受けた虐待を他人にする

解離

- 怒られるとボーとしてしまう
- 加害者が見える、加害者が近くにいるように感じる、加害者の声が聞こえる
- 学習において、難しい設問を解こうとしても集中できない

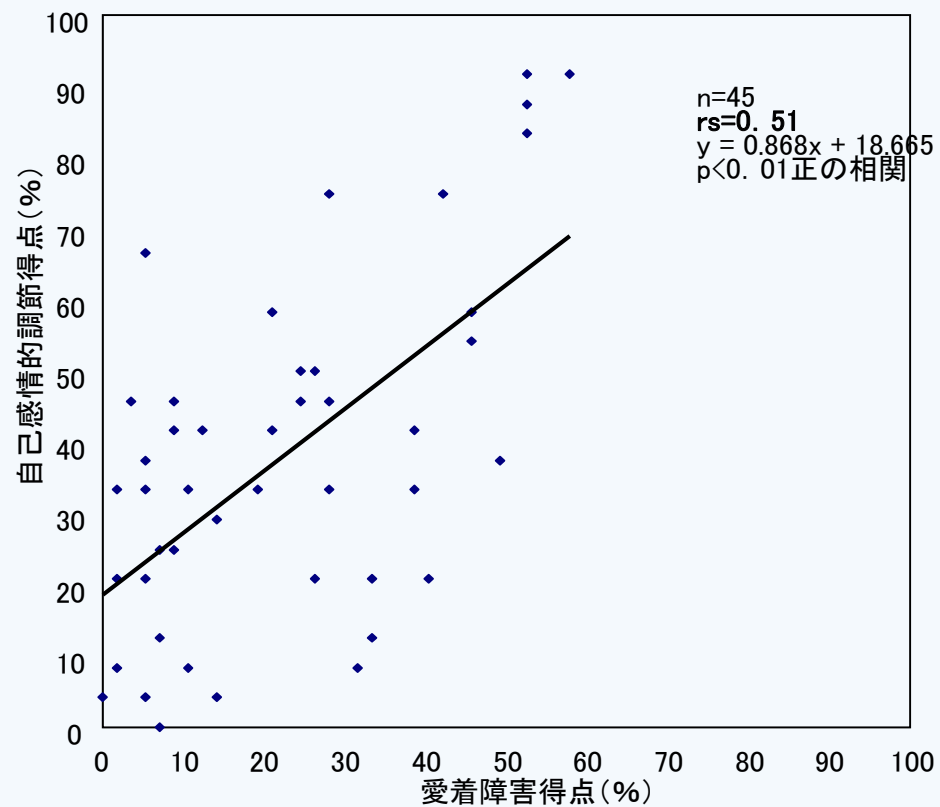
自分を調節して安定化することができない

- 心身の安定を保つことに問題が生じる
- 感情の調節困難⇒怒り出すと止まらない、燃え上がっていく
- 身体の調節困難⇒ホルモンの異常、アレルギーなど
- 行動の調節困難⇒行動が止まらない
- 認知の調節困難⇒日によってどう見るかが異なる
- 関係性の調節困難⇒他者とのかかわり方が安定しない
- 自己感の調節困難⇒安定した自己の感覚が持てない



施設群、コントロール群の比較

愛着障害症状と感情の自己調節



児童養護施設群(n=45)



ACEs研究
(adverse childhood experiences)

逆境の小児期体験(ACEs)

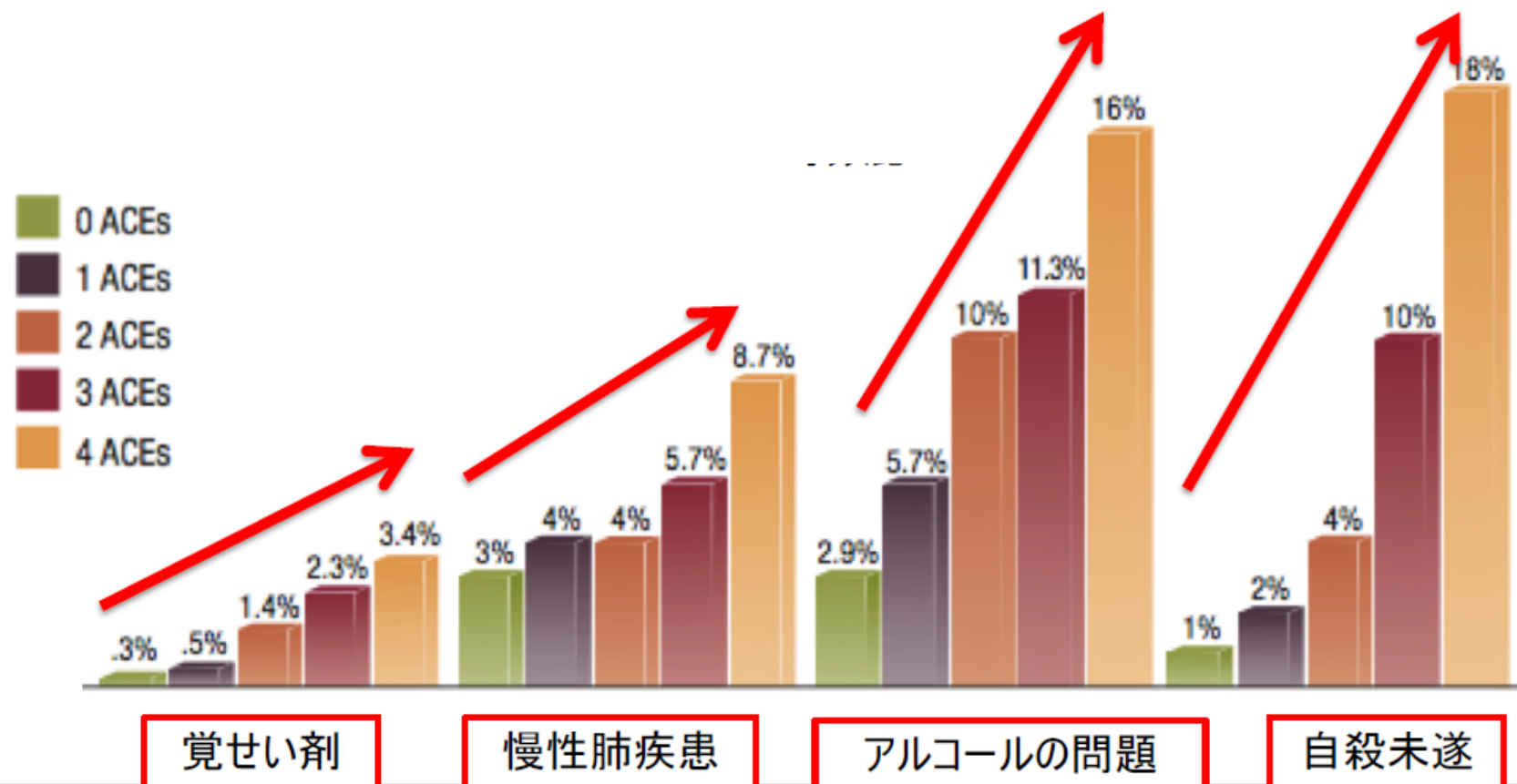
- 身体的虐待
- 性虐待
- 心理的虐待
- 身体的ネグレクト
- 情緒的ネグレクト
- 母親の暴力的な扱い
- 家庭に物質乱用者がいる
- 家庭に精神疾患の人がいる
- 親の別居や離婚
- 家庭に収監された人がいる

ACE研究



逆境体験の将来への影響

Adverse Childhood Experiences (ACEs)



長期予後

逆境的小児期体験が10項目中6項目ある人は
そうでない人に比べて



寿命が20年近く短い

Brown, D.W., Anda, R.F., Tiemeier, H., Felitti, V.J., Edwards, V.J., Croft, J.B., and Giles, W.H. (2009) Adverse childhood experiences and the risk of premature mortality. *Am J Prev Med* 37, 389-396

どう対応するか



問題行動への見方

- 「困った行動」から「きっと理由がある」へ
- 「行動を何とかしよう」から「行動の背景を理解してみよう」へ
- 多くの理由はサバイバルのために身に着けた行動
- 従って、ちょっとやそっとでは変わらない
- 簡単な褒めたり、叱ったりは効きにくい

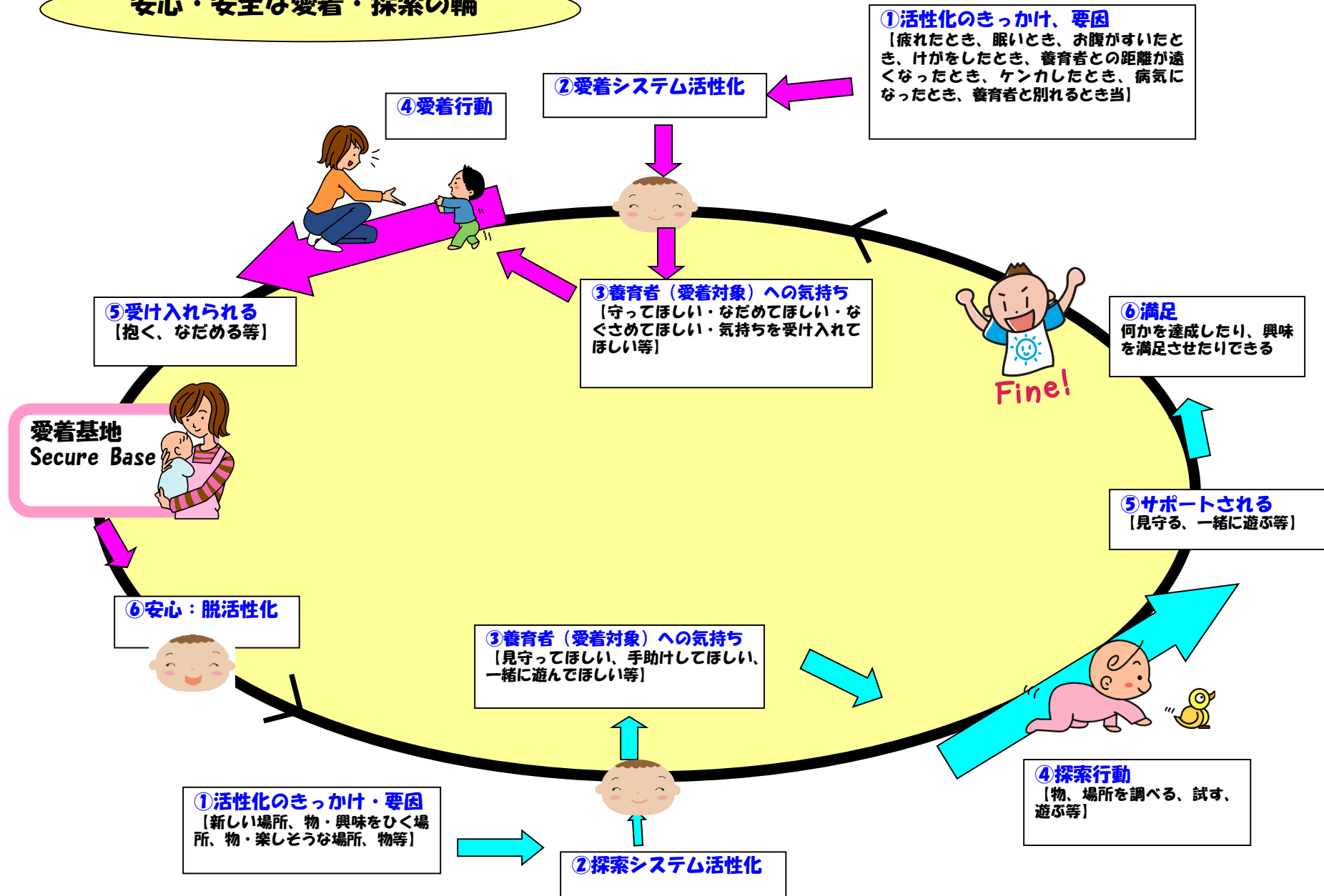
基本となるのは

- 捨てないという安心感が最も重要
- 暖かい光を当て続ける
- 子どもの強みを本気で認める(口だけではなく)
- 不適切な養育をした親と同じ対応をしない←親と同じ対応を呼ぶような行動を取る
- 子どもを理解しようという姿勢を貫く
- 逃げない(その場を離れるのは逃げることではない)

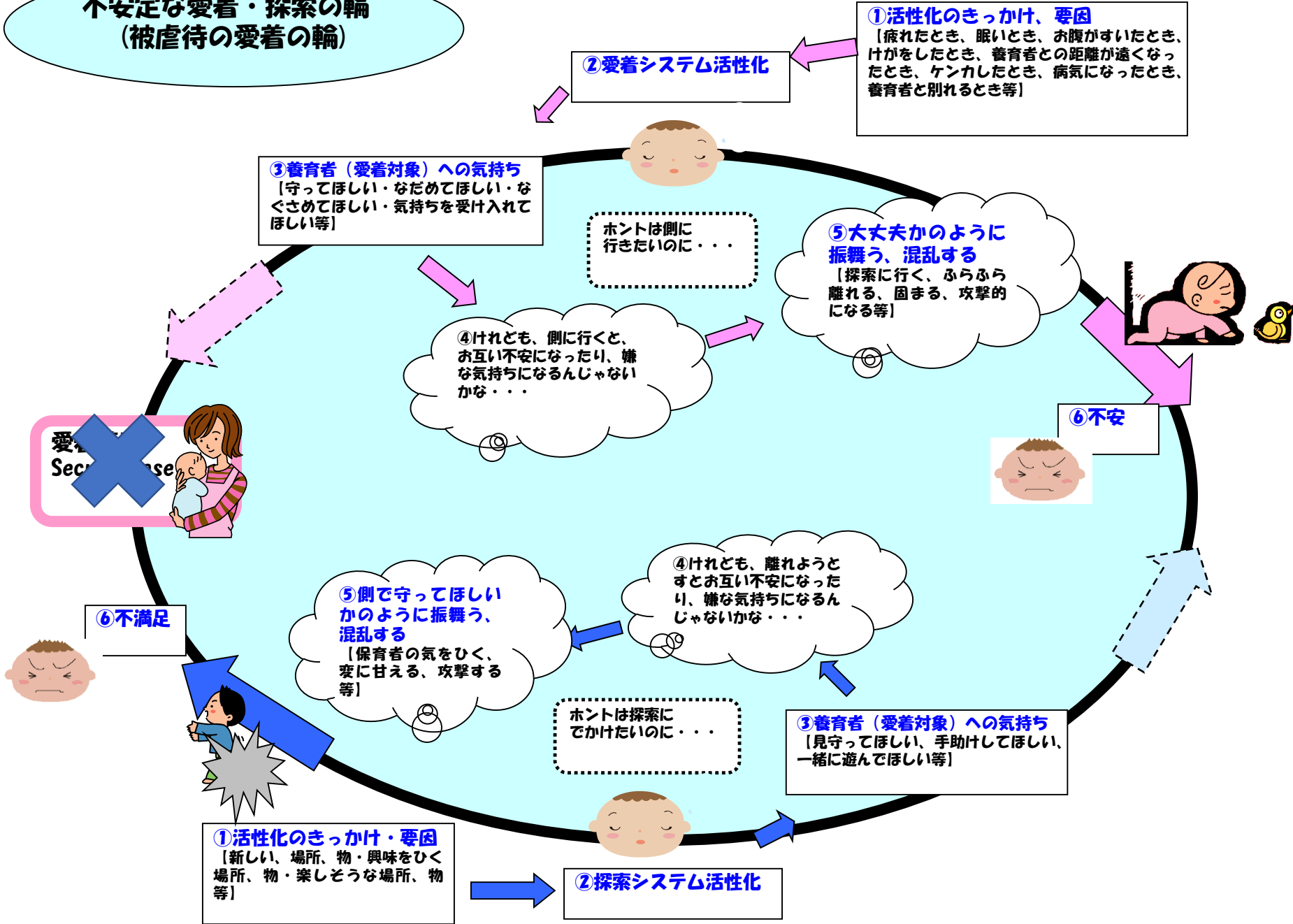
3つのアプローチ

- アタッチメントに焦点づけられたアプローチ
- トラウマに焦点づけられたアプローチ
- アタッチメント問題—トラウマ複合に対するアプローチ

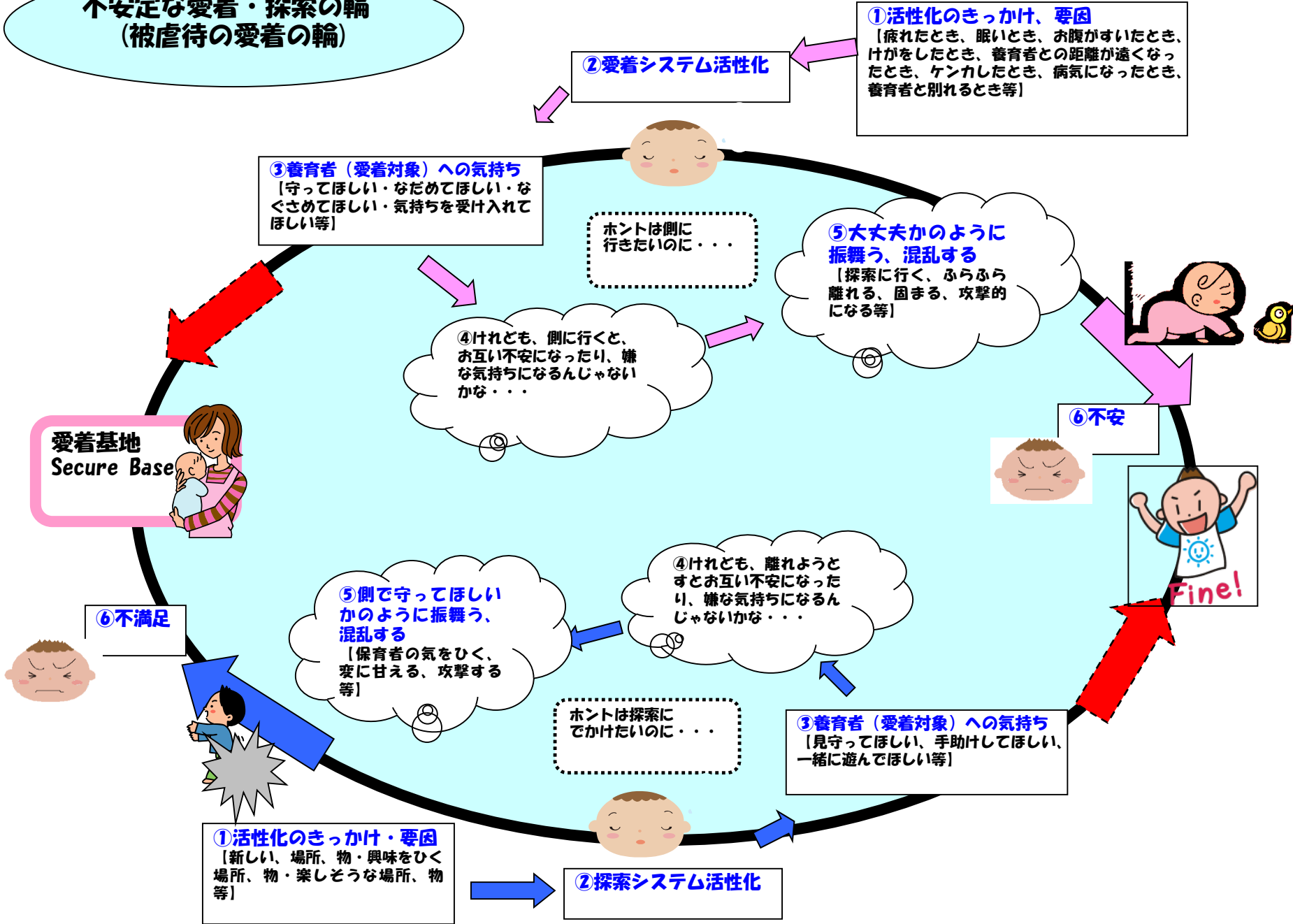
安心・安全な愛着・探索の輪



不安定な愛着・探索の輪
(被虐待の愛着の輪)



不安定な愛着・探索の輪
(被虐待の愛着の輪)



トラウマに焦点づけられたアプローチ

- 里親自身が子どもの過去と向き合うことを避けない
- 心理教育
 - あなたのような体験をしたら、当然のこころと体の変化であることを知る
 - 学校に行かないから怒られていた⇒怖い体験をすると学校に行けなくなることもあるんだ
 - 不安になった時のリラクゼーションを学ぶ
- 地雷(リマインダー)を探す
 - ⇒見つけたら、そのリマインダーを遠ざける
 - ⇒子どもが真にエンパワーされたら、徐々に近づくことは可能だが時間がかかる
- 虐待の再演を見つける
 - 困った行動⇒本人がそんなことをされていたのかもしれない

日常の中で

- 里親さんも一緒にリラックスする感覚を共有して、その感覚を育てる
お茶を飲む、アロマ、足湯、互いのマッサージ、等等……
- 身体接触での安心感
膝の上に頭をのせてゆったりとした感じを共有する
- 安心すると過去の話が出てくる
大変な体験を聞いたら、共感するが動じない

アタッチメント問題—トラウマ複合への対応

- 別の形でカバーすることを考える
- スキルを獲得させる
- 身体活動で自身の身体の一体感を学ぶ
- 寒い—熱い of 感覚の体験 今ここの体験を大切にする

セルフケアを忘れずに



虐待を受けた子どもと生活することで起きること

- 代理受傷
- うつ

<https://www.ncchd.go.jp/kokoro/shiensya/>